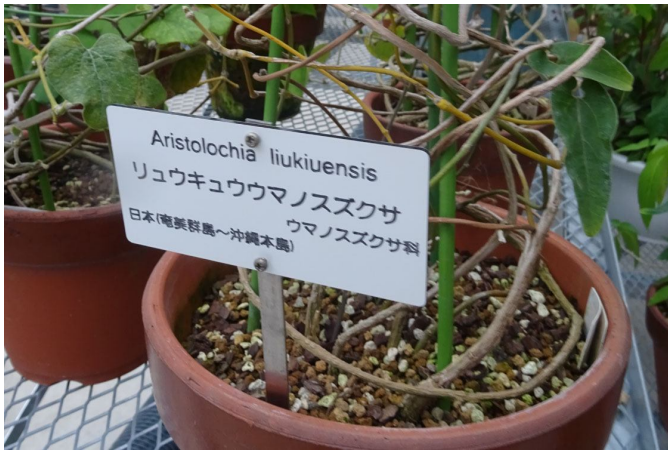


小石川植物の新温室は、入園者が鑑賞することが第一の目的ではなく、植物学の研究用に設置されている。従って、建物全体を熱帯地方のようにして、入館者がその環境に入ったような体験ができるわけでもない。温室内のほとんどの植物は、移動・研究に便利のように「鉢植え」である。



展示されている植物も、特別なものではなく、その地域に普通に自生しているものが多い。分類別ではなく、奄美・沖縄、小笠原、台湾、東南アジアなど、地域別に展示されているのがわかりやすい。写真は「リュウキュウウマノスズクサ」(琉球馬の鈴草)で、奄美から沖縄本島にかけて自生している植物である。



展示されている鉢植えには、すべて「学名、和名、科名、生息地」が付されている。そのほかにも研究や観察の「履歴」もある。この札には、2016~2017年は結実がなかったが、2018年には1個実がなったとある。



私は47都道府県では沖縄県だけ旅行したことがない。しかし奄美は訪ねたことがある。その時に見た植物にまた出会えてうれしかった。これは「クワズイモ」(食わず芋)の仲間、奄美の日本画家・田中一村(たなかいつそん)が好んで描いた題材である。



これは「ヒカゲヘゴ」という、樹木性のシダ植物。これも奄美大島の山間部でよく見かけた。なつかしくて、鉢ごともらって帰りたかった。